

優秀賞

「つながり」がもたらすもの

学校法人希望学園北嶺中学校 3年 前田海杜

札幌から飛行機、列車を乗り継いで約八時間。この夏、僕は徳島県阿南市で行われたキャンプに参加した。知り合いは誰もいない。そんな僕にキャンプリーダーは「このキャンプは自由。『決める力』で人とつながる事が求められます。」と言った。ただでさえコミュニケーションに不安しかない僕は、阿南の海の美しさも目に入らないほど途方にくれた。

五泊六日、十六人の中高生が自分達で判断して行動する事がこのキャンプの唯一のルールだった。各々の希望や体力面等を考慮し、活動内容を決め、実践する。自然の中の活動なので、計画を立ててもその通りに行かない事もある。また、時に意見がぶつかる事もある。しかし、経験を共有する事や、話し合いで価値観を認め合う中で、互いが呼応し、信頼感が生まれつつある事に気づいた。実際僕は相手の様子を見てちょっとした手助けをしたり、思いを伝える事で、相手と「つながる」感覚を得た。「つながり」は僕に安心感をもたらし、初めて相手に心を開く事ができた。それをきっかけに景色が違って見えて、一つ一つの経験が楽しくて仕方なくなつた。キャンプ最終日、月と星の明かり、対岸の工場の灯りしか見えない夜の海で、出会つたばかりの「仲間」と、いつまでもこのキャンプが続けば良いのに、と話した事は忘れられない。

SNSが当たり前のツールである僕らはリアルに人と「つながる」事に臆病だ。確かに「いいね」をクリックして「つながり」を感じる事もできる。しかし、僕は目の前の相手に「いいね」と声に出して伝えられる自分になりたい。多様な人と「つながる」事で、自分の視野を日々更新し、思いを共有できる。即ち「つながり」は世の中から誤解や争いを減らす力になり得るのではないか。相手の背景を知り、思いに寄り添い、自分の言葉で話す事が、人と人をつなげる。その「つながりの輪」は世界を変える。この夏僕は「つながる」事で少しだけ、大人になった。